永井先生からのメッセージ No.10

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2023年6月9日（金）　野毛山幼稚園

【子育ては大事業】

元小学校教諭　永井 裕

▶30年前・1993年（Ｈ5年）。Ｊリーグ開幕。その当時皆さんは、いかがお過ごしだったのでしょうか。お誕生前・・・という方もいらっしゃるのかと。その頃の私は、職場から、完成間近のランドマークタワーを眺めながら、「この壮大な開発事業に比べ、私がやっている学級担任の仕事など、なんてちっぽけなものなんだろう。」と思っていました。

▶そんなある日、こんな文を目にしました。みなとみらい開発のような仕事のトップに立ち、大勢の人々を動かしている方のお悩み。「自分の子どものことになると少しも思い通りにならない。」

▶このことから読み解けるメッセージ。それは、「家庭で子どもを育てるということは、ランドマーク建設を上回るほどの『大事業』なのかもしれない。子育てはいよいよ、そんな時代に突入したのではないか。」

▶そして、それから30年。社会の急速な発展と変化の中、子育ても、日に日に難しさを増し・・・・「厳しくすべきなのか、甘くすべきなのか。」「ゲーム、スマホ、タブレット。何がよくて何がいけないの？」伝統的でおきまりの言い分・方法は、通用しない。ネットや書籍では様々な説が提唱されているが、「これだ」という確証が得られない。あれこれ迷っている間にも、子どもの知識はどんどん豊富になる。子どもに対して優位を保つこと、ゆとりをもってを見守ることが難しくなる。まさに、『大事業』です。

【どっぷりつかる①～学力とのかかわり～】

▶「子育ては大事業だ」という覚悟はできた。となると次は解決策。しかし、全てのご家庭に通用する、そんな便利な方法はあるはずもなく。そこで、何かのヒントになればと願い、『どっぷりつかる』という言葉をキーワードにしてみました。（今回は①、次号7月号では②と続けてみたいと思います。）

▶「ゲームにどっぷり」を体験させると、心残りがなくなり、自分から離れていく、という説。「一理あり」かとも思いますが、「ゲームに溺れる」危険性も。では、溺れないようにするためには、何が大切か。一案が、上の図です。幼稚園では、例示よりもはるかに多くの「どっぷり体験」を日々重ねています。お伝えしたいことは、それらを家庭においても少しずつ・・・・今よりもさらに・・・・ということです。

▶一例として、『読み聞かせ』と書きましたが、絵本などの読み聞かせで養われる思考力や想像力は、小学校での様々な学習の土台となります。「字が読めるか・書けるか」という技能面ではなく、『脳の発育』という点で、とても重要な「どっぷり体験」となるのです。

▶例えばですが、「○分間ゲームしたら、○分間絵本を読む」というルールができ、生活にメリハリが生まれくれば、ゲームをしている我が子にイライラすることも少なくなるのでは。また、子どもは、親を変に気にすることなくゲームを楽しめるのでは。（決してゲームをおすすめしているわけではありませんが）

▶「2歳の頃から、Eテレの『にほんごであそぼ』をずっと見せてました。意味なんて分かってなかったと思いますけど、なぜか好きだったようで、今も夢中で見ています。」１年生の保護者から、こんな『どっぷり体験』を聞いたこともあります。歌舞伎や落語などの伝統文化。ことわざや四字熟語。遊びながら日本語的感覚を身に付ける。番組が20年も続いている理由がよく分かります。

参考・引用『こころの処方箋』河合隼雄 著（1992年）